

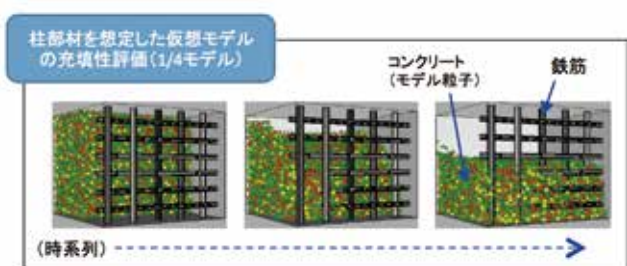
橋本研究室の愉快な仲間たち

徳

島大学にあるコンクリート工学研究室は橋本親典教授、渡邊健准教授、石丸啓輔技術職員の3本の柱に支えられている。コンクリート工学研究室は平成29年2月現在、学部3年生8人、学部4年生9人、大学院生7人から構成される。今年からは、ナイジェリアからの留学生も仲間に加わり、我が研究室もグローバル化が進みつつある。我が研究室の学生らは、基本的に橋本親典先生が率いる「フレッシュコンクリート系ゼミ」、渡邊健准先生が率いる「非破壊系ゼミ」のどちらかに所属する。

まずはフレッシュコンクリート系ゼミの紹介をしよう。フレッシュコンクリート系ゼミでは、主にフレッシュコンクリートの施工性能について研究している。主流となっている研究は、ボックス形容器を用いた加

振時のコンクリートの間隙通過性試験である。ここ3年の間にこの試験方法を用いて、非鉄スラグ骨材、再生骨材、フライアッシュ、高炉スラグ細骨材を用いた施工性能試験が行



フレッシュコンクリートの流動解析の一例（フレッシュコンクリート系ゼミ）



橋本 親典 教授



渡邊 健 准教授



石丸 啓輔 技術職員

われてきた。他にも実験だけでなく、コンピュータを用いたフレッシュコンクリートの流動解析も行われている。ところで、橋本先生は繊細で優しい人である。その証拠に年末年始には、学生らの安全を祈願して、コンクリートミキサには、しめ縄が飾られる。学生らはそれを見て先生からの愛を感じているだろう。

非破壊系ゼミでは、主に硬化コンクリートの非破壊検査について研究を行っている。現在では、超音波による鉄筋腐食の早期発見手法の確立や、透気試験の簡易手法の開発などが活発的に研究されている。フレッシュコンクリート系の研究は、フレッシュコンクリートを対象に実験を行うため、ほとんどのデータが1日で採れる。それに対して、非破壊系の研究はコンクリートが硬化してから経時変化的にデータを採取する

ため、継続的に実験をできる学生に向いているゼミである。使用器具や実験風景は、高度な試験器具を使っているため、それに憧れてゼミに参加する学生もいる。

さて、これまで研究室内の研究活動について述べたが、次は、研究室で開催されるイベントについて紹介しよう。橋本先生の趣味は研究室の人ならば全員知っているだろうテニスである。ある日は先生主導で、またある日は学生たち主導で、盛んに週末に2時間程度のテニス大会が開かれる。幾度となく参加している猛者（学生）たちはテニスに夢中になり過ぎて、マイラケットを購入するくらい、我が研究室ではテニスブームである。橋本先生もテニスが好きである。テニスの話を始めると、お忙しい身にも関わらず、1時間間は平気で話をしてくださる。先生

徳島大学 コンクリート工学研究室

文責者 徳島大学大学院 M2 岡友貴



超音波検査（非破壊系ゼミ）



テニス風景（右：橋本先生、左：学生）



スポーツ大会（フットサル大会）



阿波踊り練習風景



現場見学（上分二号橋：PCU コンポ橋）

もマイラケットを3本お持ちだ。ラケットを持っていない学生は先生からラケットを貸していただけるが、恐れ多くて全力でプレーすることができない。このほかに定期的にスポーツ大会が行われる。徳島大学にはコンクリートを対象に実験を行う研究室としてコンクリート工学研究室の他に、維持再生工学研究室がある。2つの研究室は実験室を共有し、時には実験器具を共有したり、合同発表会を行ったり、いわば同じ釜の飯を食う仲間である。もちろん、ス

ポーツ大会も合同で行われる。先生方も積極的に参加していただけるので、和気あいあいと先輩・後輩関係なく絆を深めることができる。突然だが、徳島で一番大きなお祭りをご存じだろうか。それは、阿波踊りである。お盆に開催されるこのイベントは4日間、見てよし、踊ってよし、観光客も踊り子も皆が楽しめる。徳島大学では、各学科がそれぞれ連（踊り子のグループ）を発足し、イベントに参加している。我が研究

室は建設土木連の連長の役を代々任せられている。よってコンクリート工学研究室の学生の阿波踊りに対する意欲がとても高く、徳島の伝統を毎年堪能している。徳島大学では、学生らの研究室配属が3年生からである。コンクリート工学研究室では、4年次の前期では4年生のみのゼミが開かれる。そのゼミでは、コンクリートの基礎的知識を深めるために、現場見学が行われる。現場見学は基本的に四国内の施工現場または研究所を見学さ

せていただき、身近な現場からコンクリートの知識を吸収し、研究生としての土台を築いていくのである。コンクリート工学研究室は、日々研究に励んでいるが、楽しく研究している。ただ研究しているだけではなく、さまざまなイベントを通して、先生方や先輩方とコミュニケーションを図っている。この環境は、橋本先生や渡邊先生の人柄のおかげだと思う。学生一同、「私は徳島大学のコンクリート工学研究室出身だ。」という誇りを持って卒業していく。